



岐阜県政記者クラブ加盟社各位

令和7年11月7日（金） 岐阜県発表資料			
担 当 課	担 当 係	担 当 者	電話番号
広報課	管理広聴係	中野	内線 2132 直通 058-272-1118 FAX 058-278-2506

第48回県政世論調査結果について

このたび「第48回県政世論調査」の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

県民意識の把握とともに、県行政に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

(2) 調査の経緯

昭和42年から実施、今回48回目

※昭和42年～昭和61年：毎年実施、昭和63年～平成18年：隔年実施、平成20年～：毎年実施

(3) 調査項目

15問

(4) 調査時期

令和7年6月30日～7月23日

(5) 調査の設計

- ・調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女個人
- ・標本数 3,000人
- ・抽出方法 層化二段無作為抽出法
※県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じ比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うもの。
- ・調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
（オンラインは令和3年から実施）
- ・有効回答数、回答率

実施年度	標本数	回答数	回答率	有効回答数のうち オンライン回答数（割合）
第48回（令和7年度）	3,000	1,644	54.8%	617（37.5%）
第47回（令和6年度）	3,000	1,699	56.6%	458（27.0%）

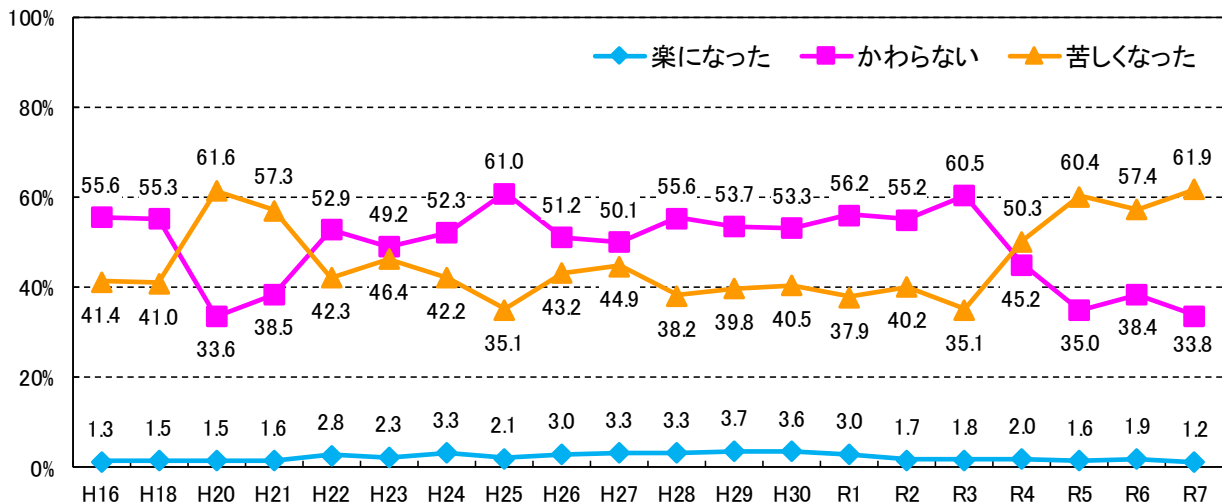
1 くらしについて

1. くらし向きやくらしの満足度 <問1、2>

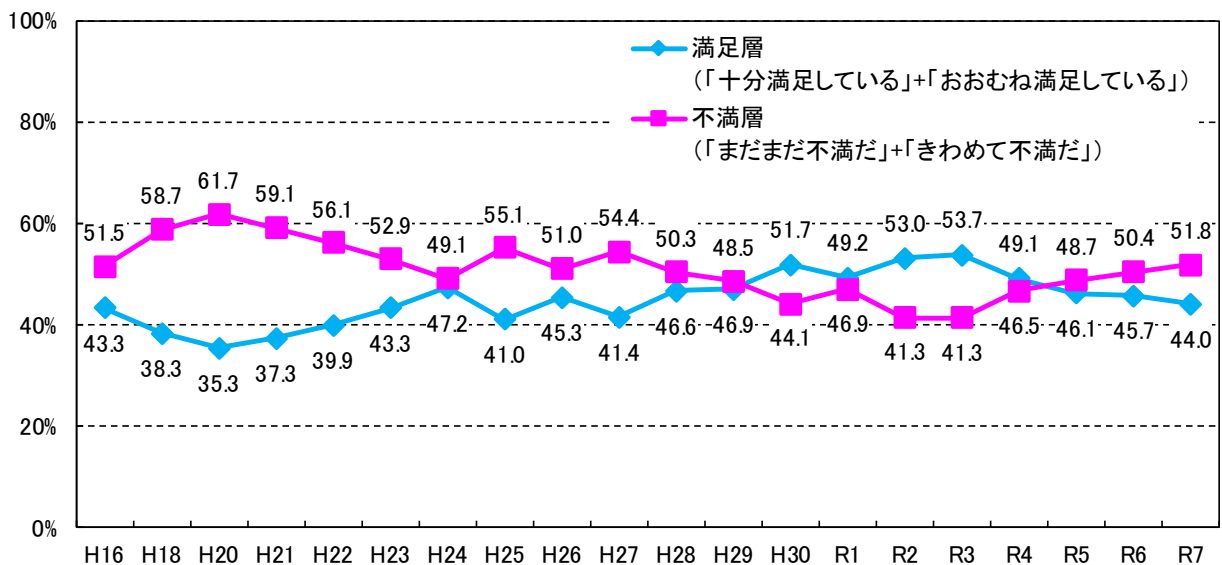
くらし向きは「苦しくなった」が約6割を占め、くらし全般の満足度は「不満層」が増加し、3年連続「満足層」を上回った。

- ・家庭のくらし向きは、「苦しくなった」が61.9%（前年に比べて4.5ポイント増加）、「楽になった」が1.2%（前年に比べて0.7ポイント減少）、「かわらない」が33.8%（前年に比べて4.6ポイント減少）となっている。
- ・くらし全般の満足度は、「十分満足している」と「おおむね満足している」をあわせた「満足層」が44.0%（前年に比べて1.7ポイント減少）、「まだまだ不満だ」と「きわめて不満だ」をあわせた「不満層」が51.8%（前年に比べて1.4ポイント増加）となり、3年連続「不満層」が「満足層」を上回った。

◆くらし向き



◆くらし全般の満足度



2. くらしの中で感じる不安や今後重視したいこと <問3、4>

くらしの中で感じる悩みや不安の主な要因は、「収入・貯蓄」が最も高い。今後重視していききたいことは、「健康・体力づくり」が前年に続き最も高く、約6割となっている。

- ・くらしの中で感じる悩みや不安の主な要因は、「収入・貯蓄」が65.1%（前年に比べて3.4ポイント増加）、次いで「健康・体力」が61.3%（前年に比べて5.9ポイント減少）となっている。
- ・今後のくらしの中で重視していききたいことは、「健康・体力づくり」が59.5%と前年に続き最も高く、次いで「家計の安定・充実」(53.2%)となっている。

◆くらしで感じる悩みや不安

順	項目	R7	R6（順）	前年比
1	収入・貯蓄	65.1%	61.7% (2)	3.4
2	健康・体力	61.3%	67.2% (1)	▲5.9
3	仕事	25.8%	23.1% (4)	2.7

◆今後重視していききたいこと

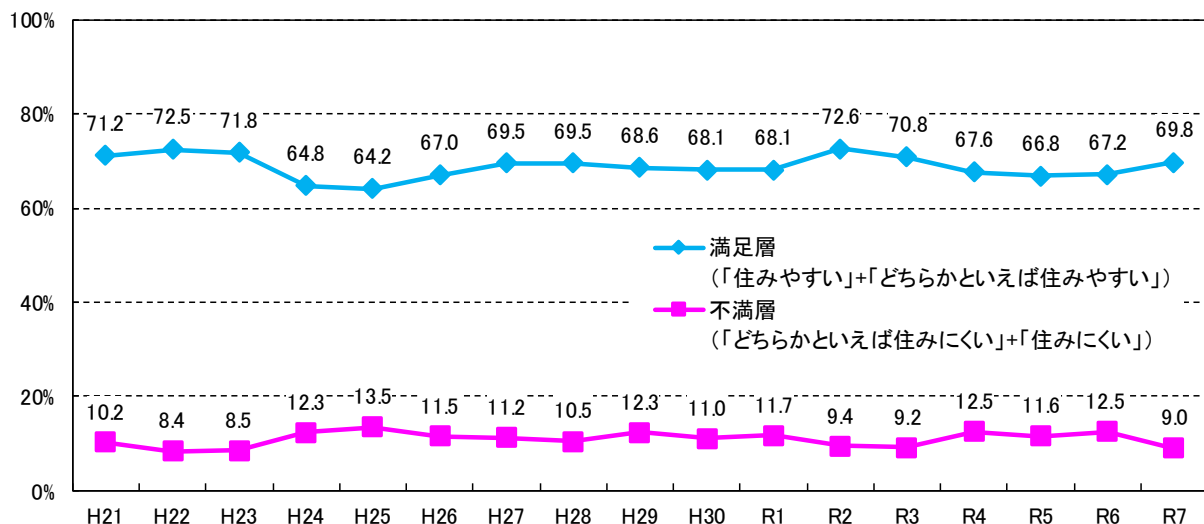
順	項目	R7	R6（順）	前年比
1	健康・体力づくり	59.5%	63.7% (1)	▲4.2
2	家計の安定・充実	53.2%	50.8% (2)	2.4
3	老後の生活への準備	35.8%	41.0% (3)	▲5.2

3. 住んでいる地域の住みやすさ、岐阜県での定住傾向 <問6、7>

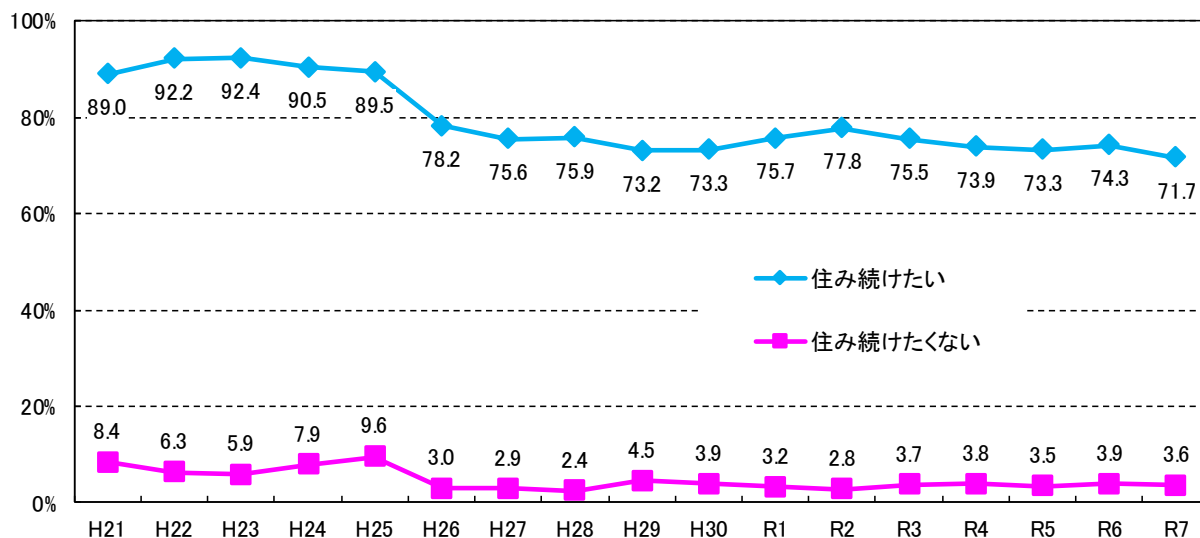
住みやすさの評価は、前年に続き約7割が「住みやすい」と感じており、「岐阜県に住み続けたい」としている。

- ・現居住地域が「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた「満足層」が69.8%（前年に比べて2.6ポイント増加）、「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」をあわせた「不満層」が9.0%（前年に比べて3.5ポイント減少）となっている。
- ・「岐阜県に住み続けたい」が71.7%と引き続き高い水準となっている。

◆住みやすさ



◆定住志向



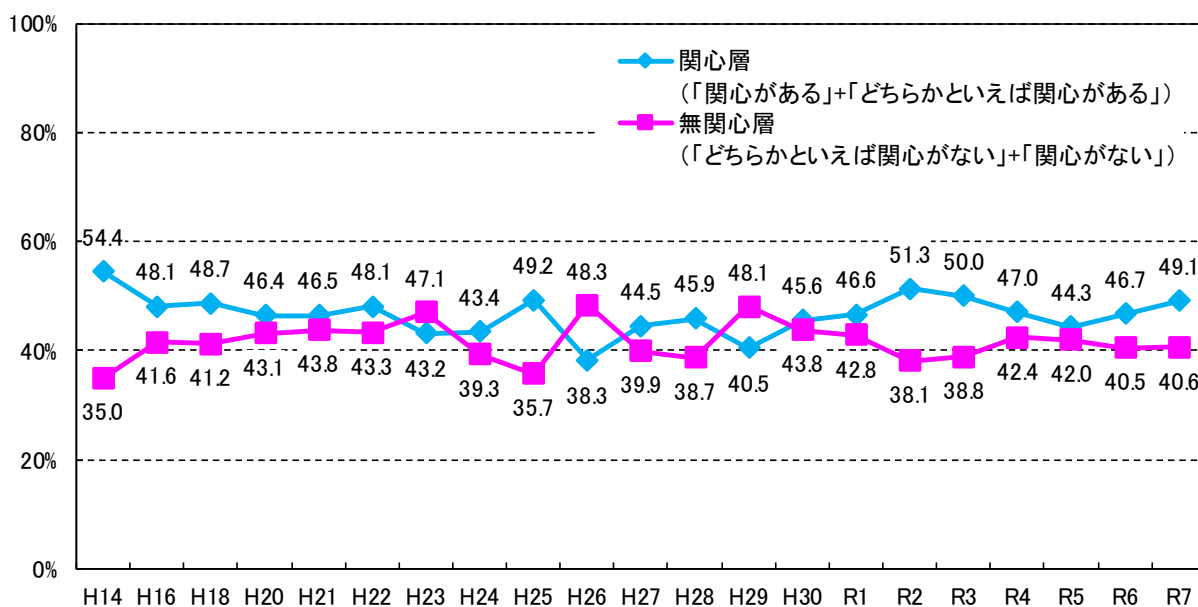
2 県取組み全般について

4. 県事業への関心の有無 <問9、9-2>

県事業への関心は、8年連続で「関心層」が「無関心層」を上回っている。

- ・ 県事業に対しては、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせた「関心層」が49.1%（前年に比べて2.4ポイント増加）、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」をあわせた「無関心層」が40.6%（前年に比べて0.1ポイント増加）となり、8年連続で「関心層」が「無関心層」を上回っている。
- ・ 関心がない理由は、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が31.6%と前年に続き最も高くなっている。

◆県事業への関心の有無



◆県事業に関心がない理由

順	項 目	R7	R6 (順)	前年比
1	県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから	31.6%	35.8% (1)	▲4.2
2	県がどのような仕事をしているのか知らないから	27.8%	20.3% (3)	7.5
3	自分たちの意見が反映されるとは思えないから	19.5%	21.8% (2)	▲2.3

5. 県の取組み姿勢について <問 10>

県の取組みで、よくやっていると思う分野は「防災対策」、努力が足りないと思う分野は「若者の県内定着」が前年に続き最も高くなっている。

- ・県の取組みでよくやっていると思う分野は、「防災対策」(25.0%)、「観光振興」(14.9%)、「道路整備・維持管理」(14.8%)の順となっている。
- ・県の取組みで努力が足りないと思う分野は、「若者の県内定着」(22.7%)、「少子化対策」(21.7%)、「公共交通の充実」(17.9%)の順となっている。

◆県の取組みでよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野

よくやっている					努力が足りない				
順	項 目	R7	R6 (順)	前年比	順	項 目	R7	R6 (順)	前年比
1	防災対策	25.0%	25.7% (1)	▲0.7	1	若者の県内定着	22.7%	20.6% (1)	2.1
2	観光振興	14.9%	12.4% (5)	2.5	2	少子化対策	21.7%	19.9% (2)	1.8
3	道路維持・維持管理	14.8%	14.9% (2)	▲0.1	3	公共交通の充実	17.9%	17.1% (4)	0.8
4	自然環境保護	13.8%	12.2% (7)	1.6	4	子育て支援	14.4%	15.2% (5)	▲0.8
5	子育て支援	13.3%	10.4% (11)	2.9	5	高齢者福祉	12.8%	17.7% (3)	▲4.9

6. 重点的に進めるべきだと思う分野 <問 11>

今後、県が重点的に進めるべきだと思う分野は「防災対策」、「少子化対策」、「子育て支援」、「高齢者福祉」の順となっている。

- ・重点的に進めるべきだと思う分野は、「防災対策」(31.6%)、「少子化対策」(27.3%)、「子育て支援」(26.5%)、「高齢者福祉」(26.4%)の順となっている。

◆重点的に進めるべきだと思う分野

順	項 目	R7	R6 (順)	前年比
1	防災対策	31.6%	28.7% (2)	2.9
2	少子化対策	27.3%	23.6% (4)	3.7
3	子育て支援	26.5%	25.5% (3)	1.0
4	高齢者福祉	26.4%	33.5% (1)	▲7.1
5	地域医療の確保	22.2%	22.4% (6)	▲0.2
〃	若者の県内定着	22.2%	22.5% (5)	▲0.3